

第13回高山駅周辺地区まちづくり協議会部会議事要旨

日 時 平成25年7月4日（木）11:00～12:28
場 所 飛騨・世界生活文化センター
食遊館地下1階 大会議室
出席委員 10名

《会長あいさつ》

《議 事》

高山駅東西駅前広場計画（素案）について

【事務局】 事務局から駅前広場の概要について説明し、続いて設計者から広場に対する設計者の考えを説明後、事前に案内している質問事項を中心に意見を伺いたい。

— 高山駅東西駅前広場の概要について説明 —

【設計者】 私からは広場に対する設計者の考えを説明させていただきます。

この事業に対しては、何を駅前広場に作るのかではなくて、作った後にどのように使われていくのかを大切にしていきたいと考えていて、いろんなご意見をいただき設計へ取り込んで、より市民の皆様に使い易いものを作っていきたいと考えている。

計画案の軸となるのは、東口広場の自由通路を出てすぐのところにある30mかける34mの回廊です。回廊の配置は、東口広場の中のバス、タクシー、一般車の駐車場に必要な動線を確保しながら、象徴的な場を作ることと考えて配置している。高山は観光都市ということでおもてなしをする、お客様を迎える空間として、ただ駅前が広場になっているだけではなくて、この回廊を作ることによって広場に象徴性を持たせることができないかと考えている。

広場の整備にあたって、高山ならではの地域の特性を活かす提案を随時織り込んでいきたい。高山にある古い町並みの屋根などの、直接的な要素を入れるのではなく、高山の持っている精神性を間接的に表現できればと考えている。駅前広場は100年単位で使われるものなので、それに耐えうる素材、設えを考えている。

回廊の位置の設定にあたっては、自由通路の出入口にあって視認性が良いこと、誰でも迷わずに来られること、東口広場の中心に当たる位置にあること、隣接するバス乗り場、タクシー乗り場、自由通路、小広場を繋ぐ位置

ということで、この位置が適切ではないかと考えている。回廊の配置については、回廊の親キャノピーの部分から枝葉となる子キャノピーが4本伸びており、これですべての機能に雨に濡れずにアクセスできる。また、この回廊が東口広場の顔になると考えており、観光案内所を道路側に寄せるという配置も考えられるが、そうすると回廊の間口が少し狭くなるので、道路、街に対して出来るだけ開いた印象を持たせたいと考えている。そのため観光案内所は回廊の中の奥の方、自由通路前に計画している。また、親キャノピーの高さが3mだが、非常用の車両が進入することも考えられるので、車両が通る時だけ開閉する機構ができないか検討している。また、冬季の融雪に関して、基本的に歩行者空間は無散水の融雪、車道部分は散水の融雪を考えている。広場の融雪を考えるにあたって、使われるユーザー目線から使い易さに対する意見を伺いたい。

次に観光案内所とキャノピーの設えですが、始めに高山の伝統技術の活用についてお話をさせていただければと思うが、高山に来た方が期待しているのが、伝統的な空間に迎えられる感覚だと思う。それをどのように実現するか考えた時に、まず駅前広場はどのようなものかということを考える必要があると思う。駅前広場は、街に対する一種の助走空間であり、街には伝統的建造物群保存地区、伝統の本物が待ち受けており、それに至るための助走空間であるこの駅前広場空間に、伝統技術を取り入れるにあたって、高山の精神性や耐久性を中心に考えて整備する必要があると考えている。そのため、伝統的なものを直接的な表現で取り入れるよりは、その精神性を活かしたもので高山を表現できればと考えている。ただし、その期待感として地元の技術や素材を使うことは重要だと考えている。そこで、どんな技術が高山ならではの技術か、どんな技術を使うことで高山らしさを表現できるか意見を伺いたい。

そこで、まず観光案内所ですが、広場に対してオープンにするためガラス張りになっている。夜は行燈の照明器具のような役割を果たすようにできればと考えている。同時に非常にオープンな観光案内所という性質を活かして、中の家具は高山の家具を使うことによって、ショールーム的な要素を果たせるのではないかと考えている。

キャノピーの設えについては、この広場のメインとなるのはキャノピーに囲まれた空間になると考えているので、キャノピー自体に何か特別な設えをして作るというよりは、キャノピー自体は空間の一步下がったところにある、主張しないものの方が良いのではないかと考えており、白い柱に白い屋根、こういった形状を考えている。

照明については、高山の象徴的な夜の明かりの風景がどこかという意見を伺って、それを参考に照明計画を進めていきたいと考えている。

次に回廊広場の中のシンボルツリーですが、市の木であるイチイに限らず、どのような樹木が良いか皆様に意見を伺いたい。

次に西口広場ですが、こちらについては今後広場に面する隣接地がどういった性格のものになるか決まってくれば、計画を進展できるものと考えている。

次に水盤ですが、8メートル角で水を張っている時でも、足首、くるぶしが浸かるか浸からないかくらいの非常に浅いものと考えており、入って遊ぶこともできますし、使わない時は水を抜いてしまえば、広場の一部としても使うこともできる。噴水ではなくて真ん中から水が湧き出すような、控え目な設えにするのが良いのではないかと考えている。

次に小広場ですが、中にショーケースを設けたいと考えている。このショーケースの活用方法について、皆様に意見を伺いたい。ずっと同じものを展示するのではなくて、期間ごとに物を入れ替えて、高山市の伝統技術を使ったものを展示することで、高山らしさを表現できると考えている。

ここからは各ファニチャーの説明になりますが、落ち着いたイメージがあることと、百年のスパン、そういった長い目で見ても耐えうるということから、基本的に鋳鉄製で考えている。旗立てについては、回廊広場の水盤のすぐ脇に設け、ここに祭りの旗を立てたり、いろんな活用ができるのではないかと考えている。キャノピーの照明については、歩行者の目に直接入らないものと考えている。回廊広場とバスの駐車場を隔てる防風スクリーンは、ポイントポイントに木を使い、高山らしさを全面に出していきたいと考えている。

以上で広場に対する設計者の考えの説明を終わります。いくつか上げさせていただいた質問事項について、皆様の意見を伺いたい。

【部会長】 **ただ今の説明で分かりづらかった点などありませんでしたか。**

【委 員】 **小広場の展示空間について、小広場には屋根がないので積雪の問題があること、伝統的な一位一刀彫や春慶、祭り屋台の展示も考えられるが、直射日光により展示品が傷むので難しいと思う。**

次に自転車置き場について、自転車置き場に 200 台の自転車が入るようになると、駅前近辺の貸自転車屋の経営に影響がありませんか。

【事務局】 現在、駅の南側に高山市土地開発公社の規模約 200 台の駐輪場があり、この代わりとなる東側の駐輪場として同じ規模の駐輪場としているため、影響はないものと考えている。

【委員】 駅舎の外壁の色はどうなりますか。

【設計者】 我々の構想の段階では、茶色の部分は格子をイメージしている。この部分については、耐久性の問題から木材以外の材料になる可能性がある。

【委員】 防風スクリーンは透けて見えますか。

【設計者】 ルーパー状のものなので完全に見えなくはならないが、見えにくくはなる。

【部会長】 それでは先程お話に出ました小広場にショーケースを置いて展示空間を作るという構想について、先程難しいとのご意見がありました。その他に何かご意見はありませんか。

ショーケースの問題点としては、温湿度を調整しないと展示品が傷むという問題、何を展示するのかという問題、展示希望者がいるのかという問題がある。はたしてショーケースでいいのかと思う。

【設計者】 ショーケースの屋根に温湿度を調整する何かしら機構を入れる必要があると考えている。直射日光への対策については今後検討したい。

【部会長】 祭り屋台を展示するのであれば、ショーケースに入れない方が面白い。

【委員】 高山の伝統工芸品の展示は、渋草焼にしても何にしても屋内でないと盗難の恐れもあり難しい。

【委員】 ショーケースは難しいと思う。

【部会長】 わざわざ展示しても、街中で本物を見た方は小広場の展示に興味を示さないのではないかなと思う。

次にシンボルツリーについてですが、市の木イチイではどうなのか設計者にお聞きしたい。

【設計者】 広葉樹の方がシンボルツリーとして良いのではないかと考えている。針葉樹の方が良いのではないかなという意見があればお聞きしたい。

【委員】 広葉樹は落ち葉を始末するのが大変です。

【部会長】 20年、30年、100年と駅が成熟していくことを考えると、小さい木を植えて大きくしていくことは考えられませんか。

【設計者】 あまり大きすぎる木を植えることはないと思うが、完成したときにあまり小さい木ですと寂しいので、ある程度の大きさの木を植え、そこから成長してシンボルツリーになっていく方が良いと思う。

【委員】 金沢駅には捻じれた角材をボルトで締めたモニュメントがあるが、こういった木製のモニュメントも一つの手ではあると考えている。

【部会長】 設計者にはシンボルツリーとシンボルモニュメントのどちらが良いのかをご検討いただきたい。木の種類については、地元の木工業者ですとナラ等の家具の材料が良いと言われる方がいらっしゃると思うので、決めにくいかもしれない。

次に東西駅前広場の雪対策について意見を伺いたい。

【事務局】 現在は車道部分は散水で雪を溶かす形、キャノピーの歩道部分は無散水で地下水の熱を利用して地面を温めて溶かす形にできないか検討している。

【部会長】 自由通路に氷柱は出来ませんか。

【事務局】 氷柱ができないような工夫を検討するなどできると思う。

【部会長】 水盤の辺りに集まった雪は除雪してまたどこかに集めるのですか。

【事務局】 私がお聞きしている意見としては、雪を積み上げて観光客に見ていただくという意見や、水盤は地下水を利用しますので、地下水で溶かすことも考えられるのではないかという意見もある。

【部会長】 観光客に飛騨高山の冬も味わっていただきたいということで、広場の一部は融雪を行わず、雪の広場の中を人が歩けるようなイメージが良いと思う。そのため広場の中は融雪を全面的にするのではなく、キャノピー部分のみを融雪にする方が良いと思う。

【事務局】 融雪はお金が掛かるので、予算の関係でどこまでできるのかという問題もあるが、本日は皆様からやるならこうした方が良い、雪を見ていただくことも必要ではないか、この部分はやらなくて良いのではないか、といっ

た意見をいただきたい。

【委員】 広場は滞留する場にしては日影が少ないのではないですか。

【部会長】 真夏の高山は紫外線が多いので、広場で滞留しないで中で滞留することはあると思う。例えばキャノピーと連結して、小広場に屋根を付けるという方法はありませんか。

【設計者】 夏場はかなり暑くなるので、水盤は効果的だと考えている。水盤は実際にも気分的にも温度を下げてくれるので、駅前広場に水盤があると良いと考えている。

【部会長】 次に東西駅前広場の照明についてですが、イメージ的にここが高山らしいという夜の風景はございますか。私は夜の古い町並みの黄色い裸電球が良いと思う。

【委員】 私はまちの博物館にある灯籠のイメージが良いと思う。

【委員】 駅を利用する高校生にとって、駅はほっとできる温かい場所であってほしいので、明かりの色はそれを配慮したものにしていただきたい。

【部会長】 設計者には一度ご検討いただき、こんな雰囲気はどうかというご提案をいただいた方が、委員の皆様はご意見を出しやすいと思いますので、ご検討いただきたい。

次に高山ならではの技術を活用したいということですが、例えば格子など色々な技術がありますが、例えばそういった技術をどこかに入れていき、なおかつ入れるときも地元の伝統工芸技術者が一緒に駅作りに参加するということです。高山ならではの技術といえどこういったものを思いつきますか。

【部会長】 何かご意見はございませんか。それでは、5つの質問事項について色々なご意見をいただきましたので、設計者には参考にさせていただき、構想案を作っていただきたい。今の質問事項にこだわらずご意見はございませんか。

【委員】 キャノピーの下はぜひ融雪にしていきたい。

【部会長】 広場にペイローダーを入れると石畳、レンガタイルは引っ掛かりますし、目地に水が入って凍結して春になると割れるか浮き上がりますので、石畳やレンガタイルは除雪を考えた場合には、広場の材料としては不適切だと思う。

【委 員】 昇り旗をキャノピーの内側に立てると、今までとは別のユニックを持つてくることになり委託料が高くなるので、お金の問題が発生する。

【部会長】 親キャノピーを高くすると、街中へ広がりのあるデザインになり、キャノピーの下をトラックが通れるようになるが、高くなりすぎて本来のキャノピーの役目を果たさない。しかし、道路沿いの親キャノピーはそんなに人が通らないのではないかと思う。街中へ行く人はわざわざキャノピーの下を遠回りされる方はいないと思う。道路沿いの親キャノピーは、トラックが入れるように一部なくした方が良くと思う。

【委 員】 キャノピーがない方が広場は開放的でいいのではないかと思う。

【部会長】 設計の趣旨としては、広場としての象徴的な封鎖空間を作りたいということだと思う。昇り旗と昇り旗の間はキャノピーがない方が、救急車両もトラックも入れるので、広場を使いやすいのではないかと思う。街中に続く動線も広がりのあるイメージになる。キャノピー、水盤、小広場については、一人一人に好き嫌いがあるので、意見をまとめるのは難しいと思う。

それでは、ご意見も尽きたようですので、本日の協議を終了します。本日の皆様の貴重なご意見について、設計者にはご検討いただきたい。本日のご意見を踏まえて、あと1、2回修正案が出てくるということですので、またその時にご協議いただきたいと思う。